



ふじあざみ

富士山周辺で発生するスラッシュ雪崩にご注意

急激な気温の上昇や、まとまった雨が降った場合には、スラッシュ雪崩の発生が予想されます。

↑ 富士山頂

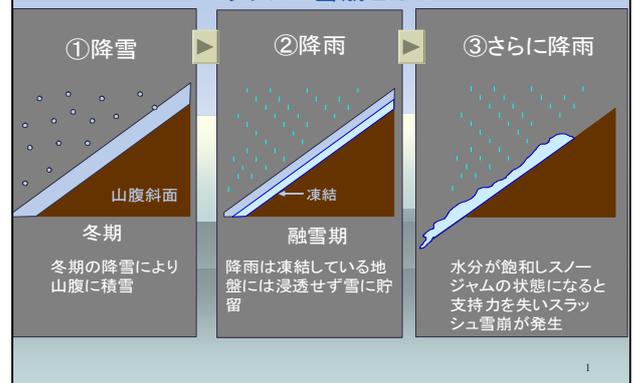
▲平成21年2月14日(日)の雪崩の発生状況
(富士山東側斜面)

富士砂防事務所では、土石流対策事業の基礎資料としてスラッシュ雪崩の発生状況についても調査を実施しています。

平成21年2月13(土)～14(日)にかけてスラッシュ雪崩発生の可能性が大きくなったため、富士砂防事務所においては、カメラによる監視体制をとりました。14日(日)には、中部地方整備局所有のヘリコプター「まんなか号」により上空から発生状況調査を実施しました。この結果、富士山東側斜面で雪崩の痕跡が見られたものの、スラッシュ雪崩の発生による被害は確認されませんでした。

しかし、富士山に積雪があり、急激な気温の上昇やまとまった雨が降った場合には、スラッシュ雪崩の発生が予測されます。スラッシュ雪崩が発生すると、山林や道路に被害が発生する可能性があり、注意が必要です。また、スラッシュ雪崩の被害が下流の市街地にまで被害が及ぶことはまれですが、溪流に近づかないなど注意が必要となります。

スラッシュ雪崩とは？



▲ヘリコプター「まんなか号」による調査状況



スラッシュ雪崩にご注意を！



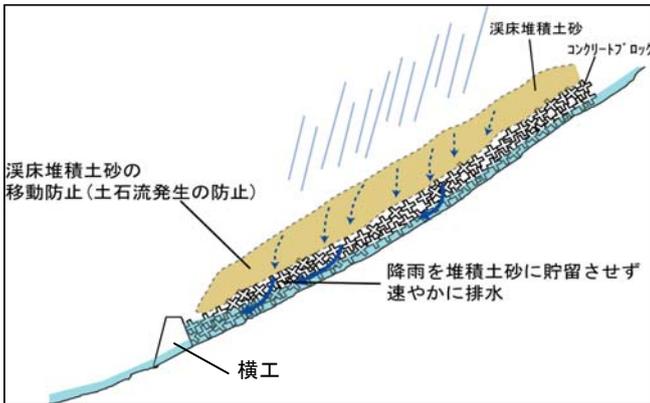
富士山周辺で発生するスラッシュ雪崩は、雪代(ゆきしろ)とも呼ばれ、大量の水分を含んだ雪が流動する現象です。流下の途中で土砂を巻き込みながら土石流となり、また下流域への到達距離が非常に長くなることもあるため、古くから恐れられています。

富士山大沢崩れ源頭域調査工事の施工状況

富士山の標高約2000m付近において「富士山大沢崩れ源頭域調査工事」を行っています。本工事は富士山大沢崩れの浸食防止のため、2000mを越える厳しい自然条件下での作業効率や安全対策手法の蓄積を行い、今後の砂防施設としての機能・効果を果たし、周辺環境や植生になじむ工法を見いだすための調査工事です。

平成20年度施工したブロックスクリーン工は、横工（型枠がわりに大型土のうを据付し、コンクリートを打設）の上部にコンクリートブロックをならべたもので、コンクリートブロックがスクリーンの役割をして、降雨により上流から流下する土石流から土砂のみを捕捉させ流水を速やかに排水をすることで、堆積土砂の移動を防止し下流への土石流の発生を防止します。

大沢崩れ内での工事は落石の発生が予測され、現場内で作業員等が作業することは危険が伴うため、大型土のうの据付や、コンクリートの打設、コンクリートブロックを並べる作業はヘリコプターによって作業を行い現場内は無人工化で施工を行っています。（無人化施工）



▲ブロックスクリーン工の構造



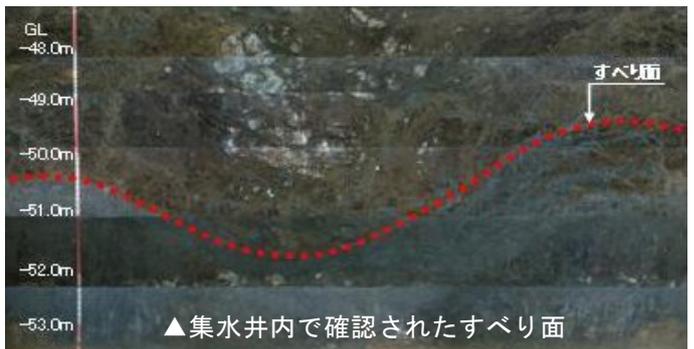
▲ヘリ施工により無人化施工

由比地すべり対策事業の進捗状況

富士砂防事務所では、平成17年度より、静岡市清水区由比にて「由比地すべり対策事業」を実施しています。由比地先は山と海に囲まれ、国道1号・東名高速道路・JR東海道本線など東西を結ぶ重要交通網を守るために地すべり対策を施工しています。現在は、主に工事用道路と地下水を排除するための集水井と横ボーリングを実施しています。また、集水井工事では地すべりの滑り面と思われる痕跡も確認されています。



▲集水井を底から見上げる



▲集水井内で確認されたすべり面



▲集水井の外観



▲工事用道路から望んだ富士山

「富士山噴火を想定した危機管理演習」を実施しました。

平成20年12月3日(水)、富士砂防事務所では、富士山噴火時に対処するため、静岡県、富士宮市の防災担当者も参加した危機管理演習を実施しました。この演習は職員の意識向上と防災体制の課題を抽出するため行ったものです。

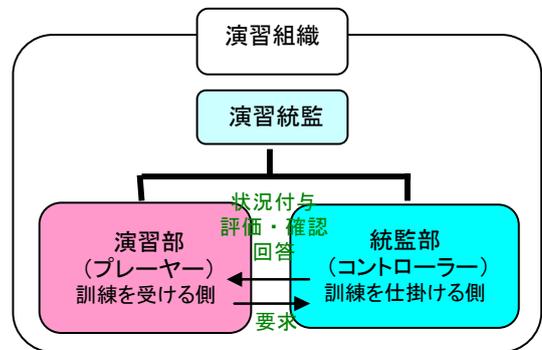


統括部（プレイヤー）の様子



統監部（コントローラー）の様子

今回の演習はロールプレイング方式で行われました。ロールプレイング方式とは、統監部(コントローラー:訓練を受ける側)と演習部(プレイヤー:訓練を仕掛ける側)に分かれ、統括部から演習部に対して様々な状況を付与することにより、演習部が問題解決にあたる訓練方法で、より現実に近い形での演習を実施し、自分の役割や適切な情報伝達等を確認するとともに問題点抽出し今後の防災体制に反映していきます。



「第13回富士山への手紙・絵コンクール」受賞者が決定しました。

平成21年1月31日(土)、富士宮市、富士宮市教育委員会、富士砂防事務所が主催する「第13回 富士山への手紙・絵コンクール」の表彰式が、富士宮市市民文化会館で開催されました。コンクールは、国内外より多くの方々から応募いただいており、今年は手紙部門と絵部門をあわせて10,565点の応募がありました。表彰式では、手紙部門・絵部門それぞれの受賞者に、表彰状が送られました。

■手紙部門最優秀賞

| 部 門 | |
|----------|-----------------|
| 氏 名 | 所属・住所 |
| 小学生低学年の部 | |
| 杉山 裕美 | 富士川第一小学校 (富士市) |
| 小学生高学年の部 | |
| 原田 星 | 大富士小学校 (富士宮市) |
| 中学生の部 | |
| 秋元美穂奈 | 富士宮第二中学校 (富士宮市) |
| 高校生・成人の部 | |
| 熊川ヨシ子 | 新潟県上越市 |

■絵部門最優秀賞



幼児の部 最優秀賞
富丘保育園 (富士宮市)
村松風和



小学生低学年の部 最優秀賞
富士根南小学校 (富士宮市)
内田早紀



高校生・成人の部 最優秀賞
星陵高校 (富士宮市)
大石紗織



小学校高学年の部 最優秀賞
伝法小学校 (富士市)
新川美波



中学生の部 最優秀賞
西富士中学校 (富士宮市)
小林開理



調査・品質確保課紹介

A係長を囲んで、調査・品質確保課の仕事について3人の職員が話をしていました。

○調査ってなにを調べているの？
「富士山と地域を守る富士砂防事務所」という言葉を事務所配布のパンフレット等で見かけたことがありますか？

調査は、富士山の「過去から現在」にわたって、「富士山周辺の広い範囲からポイントを定めた細かな場所」まで、「起こった出来事」と「富士山で起きている変化」を調べています。

調べた結果から、「富士山と地域を守る」ためにはどんなことが必要になるのかをとりまとめています。

誰もが認める美しい富士山ですが、過去から調べると「大雨等による崩壊（土石流）」や「火山噴火」を繰り返し、時には地域の方々に大きな被害をもたらしながら現在の姿になっています。

ですから、調査の内容は「美しい富士山」ではなく、「恐ろしい富士山」について調査することが多いです。

「恐ろしい富士山」で起こる「土石流」や「火山噴火」について調べることで、富士山麓地域で生活する方々の「安心・安全」を守るために役立てています。

調査した結果は、富士砂防事務所HPや記者発表を通じて、広く地域の方々にお知らせしているところです。
是非、一度富士砂防事務所HPもご覧下さい。

富士山火山砂防計画検討委員会 開催

平成20年12月11日(木)、富士砂防事務所は、富士宮市内で学識経験者と行政担当者により「富士山火山砂防計画検討委員会(通算第7回)」を開催しました。

工事安全協議会 開催

平成21年2月20日(金)、富士砂防事務所では請負工事業者及び事務所職員により「工事安全協議会」を開催しました。

由比地すべり対策検討委員会 開催

平成21年2月25日(水)、富士砂防事務所は、静岡市内で学識経験者と行政担当者により「第6回由比地すべり対策検討委員会」を開催しました。

富士砂防事務所景観研究会 開催

平成21年2月26日(木)、富士砂防事務所では学識経験者及び行政担当者、NPOにより「富士砂防事務所景観研究会」を開催しました。

上記、委員会及び研究会の詳細については、富士砂防事務所ホームページ「記者発表」をご覧ください。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士山総合学習及び現地見学会等結果報告

富士砂防事務所では、富士山総合学習や事業への一層の理解を深めていただくため、公共団体等より依頼を受けて、事業についての説明・案内を行っています。

平成20年4月～平成21年2月までに、約1700名の皆様が富士砂防及び大沢扇状地・大沢崩れを訪れ、砂防事業等について理解を深めていただくことができました。



10月21日 井宮小学校(静岡市)



10月31日 富士旭出学園



11月11日 富士見ヶ丘地区高齢者学級

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せ下さい。富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いします。



インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>
E-mail fujisabo@cbr.go.jp

■国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
担当/調査・品質確保課 永井、辻まで
TEL 0544-27-5387

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9
TEL 0544-54-0236

■由比出張所
〒421-3104 静岡県静岡市清水区由比北田110-1
TEL 054-375-5646

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。